

裸の心でびびるあいたいな。

岩下早美さん



「平らな道を歩くような毎日じゃ、かえって不安になるんです。いつも何かに夢中になっていたい。全力疾走みたいな生き方が、好きだな」

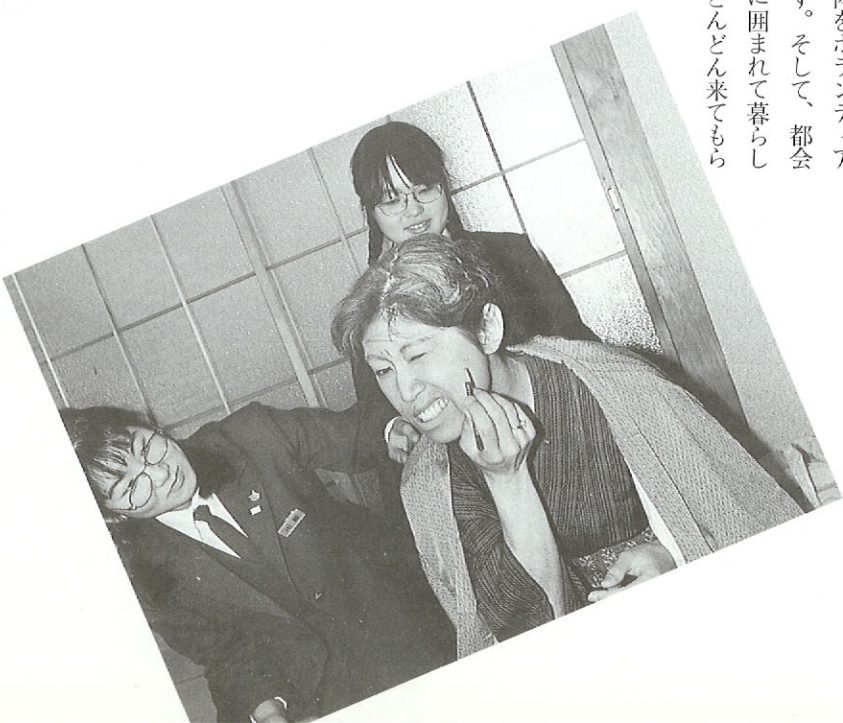
岩下早美さん(29)、県立松島商業高校の理科実習の先生である。就任以来、ギター・マンドリンクラブの顧問として、タクトを振ってきた。同クラブは、県のコンクールで7回連続の1位に輝いている。休日には、教え子達と共に老人ホームや在宅老人を訪ねる事が多い。

「演奏会と私の一人芝居をやります。よく、大変でしょうと言われるけど、そう思ったことはありません。私にとってボランティアとは、親切な行いでも、自己犠牲でもない。何かをいただきに行くことなんです。相手は長い歳月、いろんな人生を生きてこられた人達。その豊かな心や知恵を分けてもらうんだーそんな気持ちでやっています」

一人芝居に涙し、拍手を送ってくれるお年寄り達。そんな時、体の内側か

ら言い知れぬ感情が湧き上ってくる。言う。「天草を福祉の島に」が、彼女の口ぐせである。

「夢みtain話だって思われるかもしれないけど、島全体をボランティアの拠点にしたいんです。そして、都会のコンクリートの壁に囲まれて暮らしているお年寄りに、どんだん来てもら



う。海や山で遊んで、温泉に入ってお腹いっぱいお魚を食べて。天草って、本当に良い所でしょう。きつと、うまくいきますよ。いつか、実現できたらいいなと思っています」

いつも行動していないと収まらない。気が向くと、ふっと一人旅に出る。旅先で知り合う人も、数知れない。

「とにかく、出会いが好き。初対面なのに、すぐ意気投合ということも少なくないですね。たまたま隣の席に座ったのがご縁で、家に泊めてもらったり、おみやげをいただいたり。長い付き合い合いに発展しちゃうんですよ」

相手の心に裸で飛びこんでいく。心に壁を作らない。多くの人を感動させる一人芝居の秘密も、このあたりにあるのかもしれない。

「私の芝居でよければ、いつでも呼んでください。どこにだって飛んで行きますから」

彼女の心は、早くも新しい「出会い」に向けられているようだった。

●岩下早美さん連絡先/0969(9)0131
松島商業高校内

